

ヒコーキ部 鳥人間コンテスト出場!



静岡大学ヒコーキ部が、2019年以来6年ぶりの「鳥人間コンテスト」に出場し「1km以上の飛行」を目標に琵琶湖での飛行に挑みました。他団体は「高翼機(主翼が上側)」が主流の中、ヒコーキ部は「低翼機(主翼が下側)」にこだわって設計。その一番の理由は、水面ギリギリを飛ぶことで空気の流れが変化して揚力が増し、空気抵抗が減る「地面効果」を最大限に活かすことです。そのため設計者の安藤裕飛さんと飯田恵立さん(共に工学部3年)は、翼根での翼弦長を大きくして構造の剛性を高めるなど、地面効果をより最大化するべく設計に大きな変更を加えました。

モチーフとなったのは、安藤さんが幼少期に惚れ込んだ自衛隊の戦闘機「F-2」。飯田さんは、安藤さんの憧れの機体「F-2」にカワセミの羽のような美しい色「翠(みどり)」を掛け合わせ「F-2翠(ふじみどり)」と命名しました。



設計者の安藤さん

パイロットの桂風澄さん(工学部3年)は、ロードバイクやグライダーを使ったトレーニングや食事制限など、長距離を飛行し続けるための体づくりでコンテストに備えました。当日は「共に頑張った同期、OB、後輩たちとの集大成をしっかりと飛ばしたい」という思いで飛行に挑んだ桂さん。目標は叶わなかったものの、自作の飛行機で琵琶湖の空を飛んだという貴重な経験は次代の後輩たちに受け継がれます。



設計者で「F-2翠」名付け親の飯田さん



パイロットの桂さん



X WEB



見つけた! 輝く静大生

部活動、研究、地域との連携...それぞれの

場所で挑戦を続ける静大生をご紹介します。

若者の思いを発信!

小長谷 笙さん 都内の選挙イベントに登壇



壇上で意見を述べる小長谷さん

小長谷笙さん(人文社会科学部3年/政治学ゼミ)が、若者の投票率向上を図ろうと都内で開かれた政治とSNSの関係に関するシンポジウムに登壇しました。学生の現状やメディア・SNSへの見方、学生が社会に対して思っていることを真摯に発信したいという思いで参加。「若者をはじめ、多くの人に政治への関心を持ってもらうため、メディア・SNS双方の特性を生かした情報の発信と入手が重要」と述べました。新聞で時事問題を学んだのをきっかけに小学6年生の頃から政治に関心を持っていた小長谷さん。若者の投票率を向上させ、全ての世代に有益な社会・民主主義の基盤づくりに貢献したいとの思いから、本学入学時より静岡県選挙管理委員会の選挙啓発ボランティアに参加していました。

「政治はとても身近な存在で私たちの投票のみによって変化することを多くの人に知ってもらい、共に豊かな活力ある日本を創っていきたくと考えています。」

所属する政治学ゼミ(井柳美紀教授)では、選挙のたびに本学学生にアンケートを実施。政策や制度の改善に向けた提言にまとめ、学内図書館での展示や報道対応によって社会に発信しています。また、静岡市選挙管理委員会との連携で昨年行った静岡市の投票率に関する選挙啓発動画などの作成が、全国の範となると評価され、公益財団法人明るい選挙推進協会の「優秀活動賞」を受賞しました。



政治学ゼミによる「私たちの選挙2025」の展示



表彰を受けるゼミの学生

岡愛香梨さん 「静岡県をアボカドの産地に!」



静岡県が2025年度に開始した「アボカド産地化プロジェクト」のキックオフフォーラムに、本学総合科学技術研究科農学専攻を修了し、現在、岐阜大学大学院連合農学研究所所属の岡愛香梨さんが登壇。定員いっぱいの120名が集まる中、2024年の1年間、文部科学省「トビタテ留学JAPAN」制度で留学したメキシコで学んだアボカド栽培の成果について発表しました。

静岡県では、近年急傾斜地で茶や柑橘等の耕作放棄が増えており、その解消を目指して熱帯・亜熱帯果樹栽培の研究に取り組んできた岡さん。アボカドの原産国メキシコで、遺伝資源について学ぼうと留学を決めました。「毎日、驚きと発見の連続。色・形・香りも様々なアボカド品種の多様性、日本では考えられないような大規模農園での栽培管理に圧倒されました」。一方、急傾斜地にも広がるアボカド畑を見て、「静岡県での栽培にもびったりだと感じました」。

岡さんは現在、河津町で地域おこし協力隊としても活動中。アボカド産地化を目指して農家・企業等と連携し、町全体で取り組んでいます!



メキシコ留学時の岡さん(右から2人目)

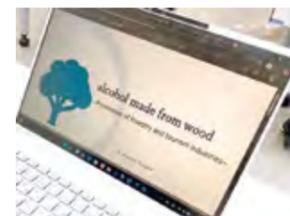
國吉佑輔さん 起業家を 目指しシリコンバレーへ



國吉佑輔さん(グローバル共創科学部2年)が日本貿易振興機構(JETRO)のJ-StarX起業家等の海外派遣プログラム「スタンフォードコース(学生)」に採択されました。米国・シリコンバレーを訪問して起業家精神やデザイン思考などを学び、自らが立てたビジネス

プランをブラッシュアップしていきます。

國吉さんのプランは「alcohol made from wood」(木からお酒を作る)。独自性を持った静岡産ブランド品として売り出し、まず静岡県の林業と観光業を振興させる六次産業化を目指すというも



のです。「もともと海外での活動や起業に興味があり、そのきっかけにしたい」と本プログラムに学部授業「コラボラティブ・ワークス」で支援を受けて応募。二次審査を兼ねた国内プログラムでの積極的な参加姿勢が評価され、全国から派遣される20人の一人として選ばれました。現地で行うプレゼンや講義、演習などさまざまなプログラムの使用言語はすべて英語。國吉さんは「現地の起業家などと接する刺激的な機会を活かし、人として成長したい」と意気込みます。今後政治に関わりたい思いもあり、大学院に進学して学びを深めることも考えているとのこと。本プログラムへの参加が今後の成長につながることを期待しています!

ラフティングチームNOVA 世界選手権に出場!



(左より) 佐々木海翔さん、大木達則さん(共に工学部3年)、瀧ヶ崎夏緒梨さん、鈴木そなさん(共に情報学部3年)

静岡大学探検部のラフティングチーム「NOVA」は、スロベニアで開催された2025年WRF世界選手権ジュニア&U23カテゴリー大会に、男女ミックス部門(U23 Mixed)の日本代表として出場しました。レースはダウンリバー(長距離)、スラローム、RX(1対1)の3種目で競われ、NOVAはRXで「優勝」、3種目総合で「3位入賞」を勝ち取りました!初めての世界大会



という大舞台で、はるかに体格の大きい海外選手と張り合い総合3位を獲得できたことは、メンバーにとって大きな自信につながりました。大会に向けて、学業やアルバイトとも両立させながら、寒さの厳しい冬でも日々練習に励んできたメンバーたち。授業開始前の朝6時から練習することもあり、世界大会の選考会前には徳島県の吉野川で自炊生活をしながら2週間の合宿を行うなど、世界の舞台で戦うことを目標に厳しい練習を重ねてきました。「多くの方の支援でここまで来れた」と感謝の気持ちでいっぱいのメンバーたち。今後はこの貴重な経験を後輩たちに伝えていきます。



Instagram WEB

